

令和4年度「富士山と防災についてのアンケート」まとめ

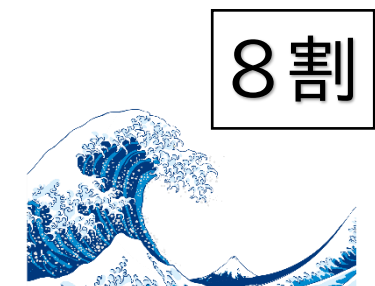
〇〇〇学校・富士河口湖町立教育センター

富士河口湖町立教育センターでは、毎年町内の児童・生徒を対象に生活実態と意識に関するアンケート調査を行っています。今年度は、火山としての富士山について、また防災についての児童生徒の意識をつかむことを目的として実施しました。アンケートは令和4年5月～6月の間に実施し、町内の小学校と鳴沢小の3年生、5年生および中学1～3年生の合計1171名に回答してもらいました。防災アンケートは令和2年度にも行っており、この2年間の変化を知ることでもできると考えました。

アンケートから浮かび上がってきた、富士河口湖町および鳴沢村の児童生徒の姿



1. 富士山は世界文化遺産？世界自然遺産？



8割の児童生徒が富士山を世界文化遺産であると答えている。
2割の児童生徒が富士山を世界自然遺産であると答えている。

2. 富士山の近くに住んでいて良かったことは？



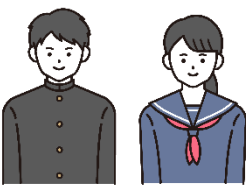
5つの学年に共通してこの4つが多かった
○いつでも富士山が見られること。
○自然が豊かなこと
○水が美味しいこと
○景色がよいこと



3. 富士山の成り立ちは？



小学校5年生以上ではおよそ9割の児童生徒が、富士山が火山であり、噴火を繰り返して高くなったことを理解している。



4. 富士山の近くに住んでいて心配なことは？

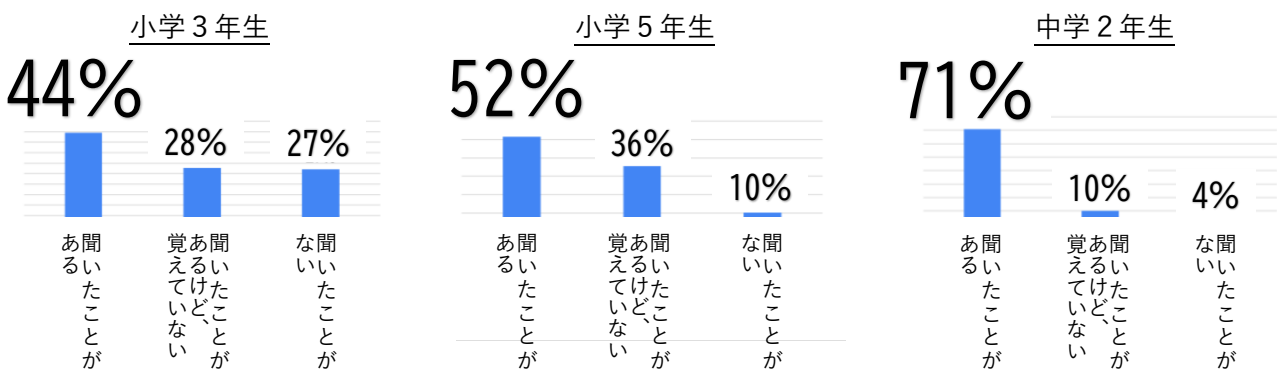


「噴火するかもしれない」「溶岩流が流れてくるかもしれない」等、富士山の噴火に関わる危険について意識が高いことを示す結果となった。



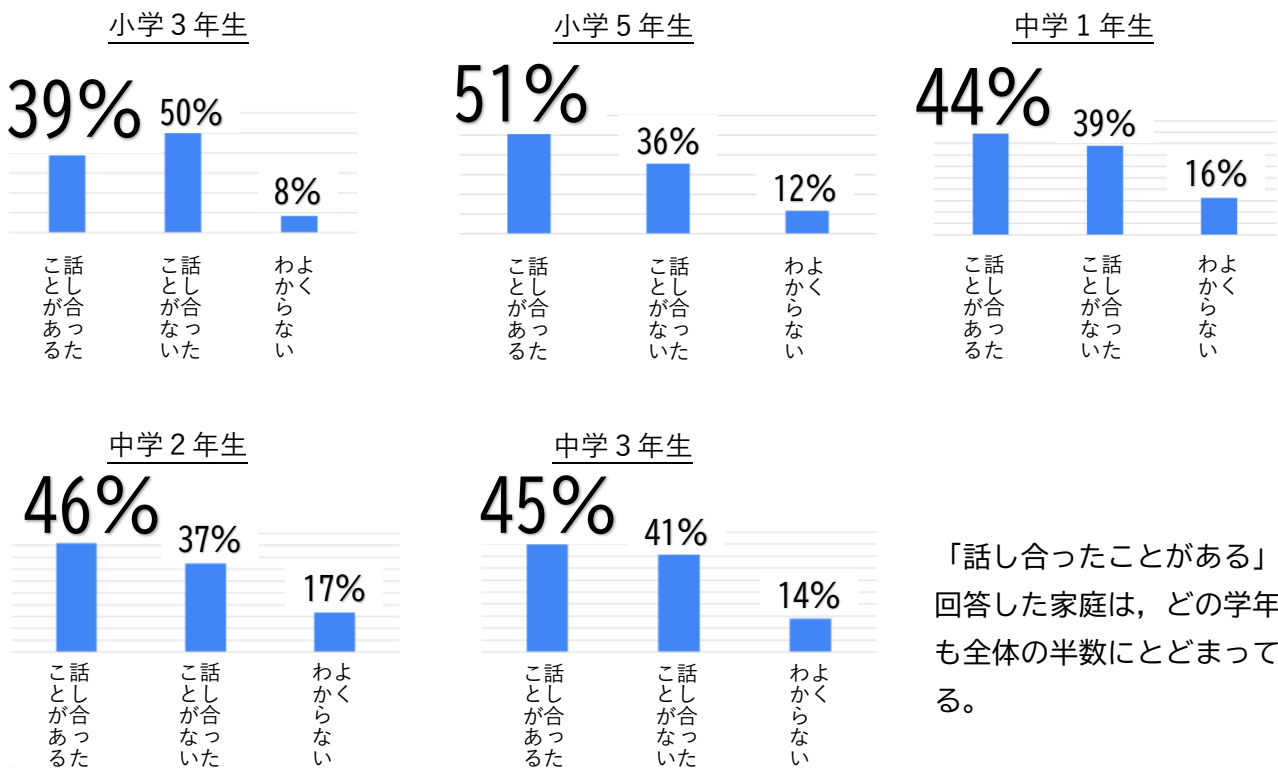
5. 富士山が噴火したときどうすればよいか聞いたことがある？

聞いたことのある人の割合は、学年が上がるにつれて上がっている



6. 富士山が噴火したときのことについて、家族で話し合ったことがある？

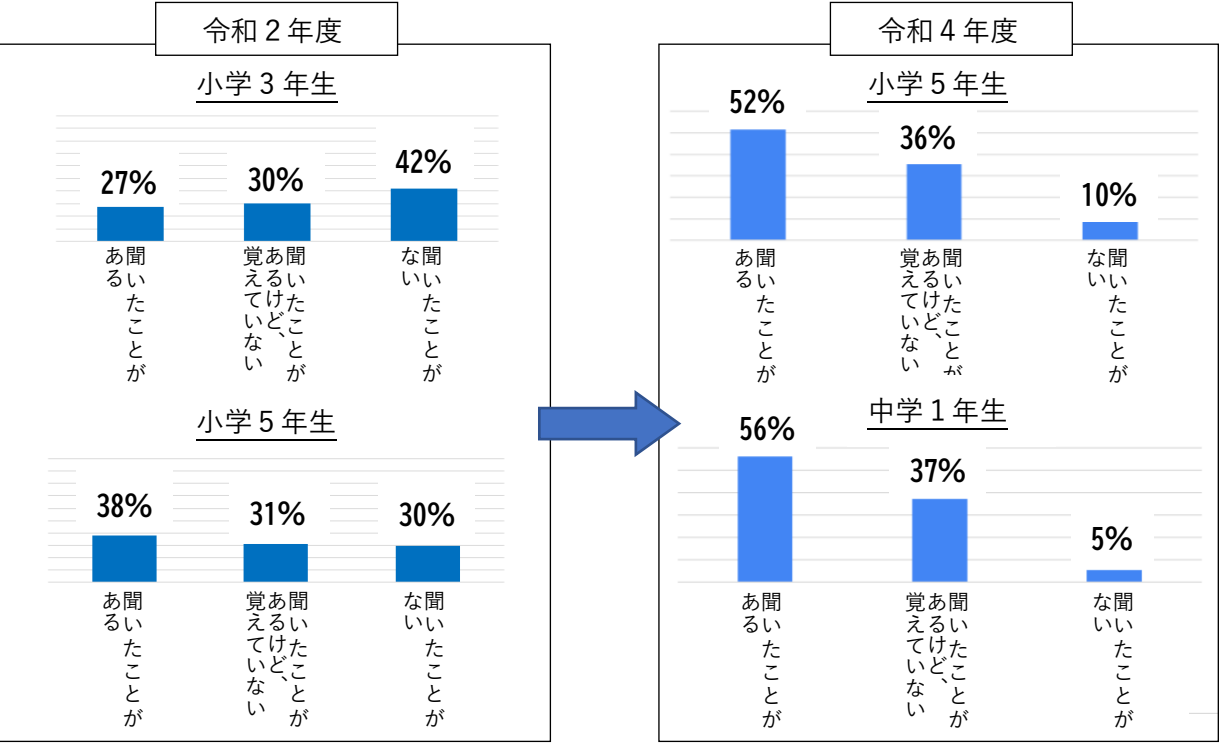
話し合ったことのある家庭の割合



「話し合ったことがある」と回答した家庭は、どの学年でも全体の半数にとどまっている。

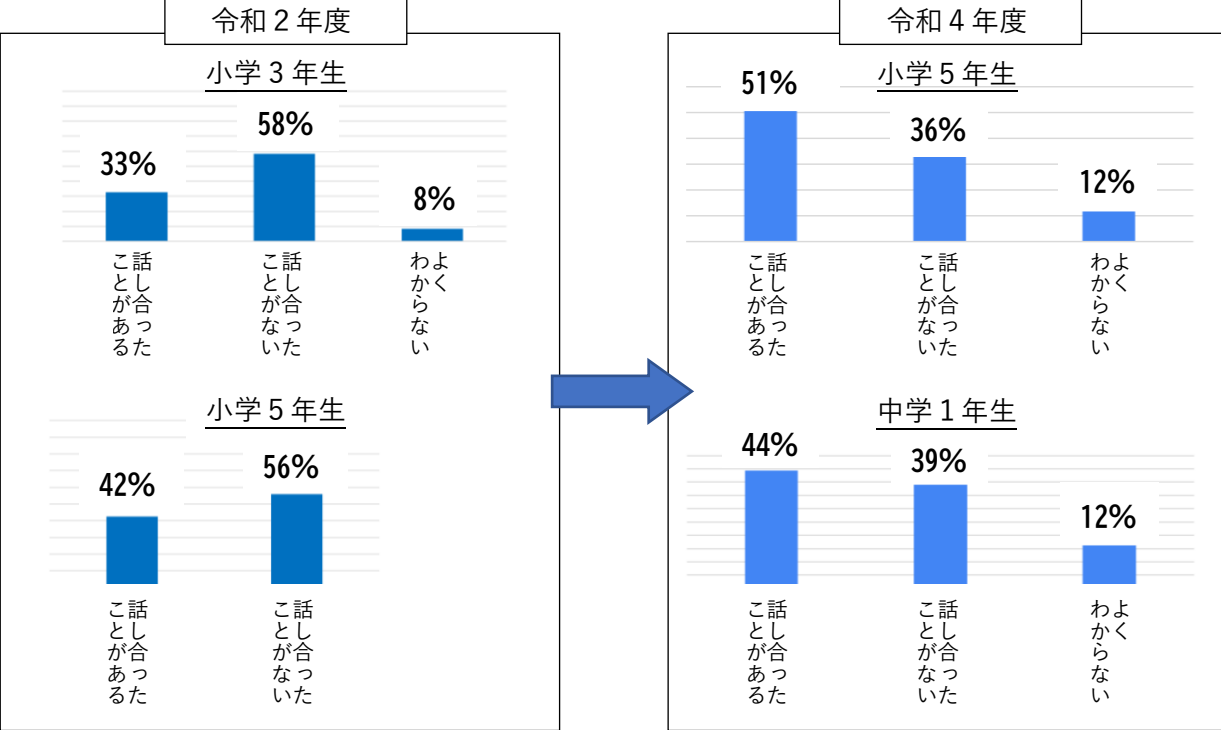
防災について2年前のアンケート結果と比べてみると

富士山が噴火したときどうしたらよいか、聞いたことがあるか



「聞いたことがある」と回答した児童生徒の割合が、どちらも2年前よりも上がっている。防災教育の成果のあらわれといえる。

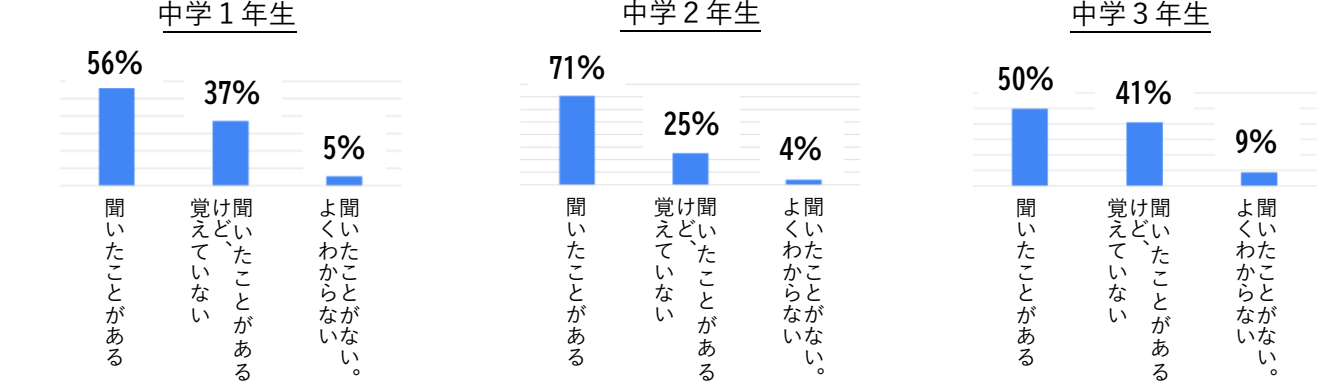
富士山が噴火したときのことを家族で話し合ったことがあるか



小学校3年から5年の2年間で、話し合ったことがある児童の割合は18%上がっている。中学校は大きな変化は見られない。話し合ったことのある家庭はどちらも全体の半数程度にとどまっている。

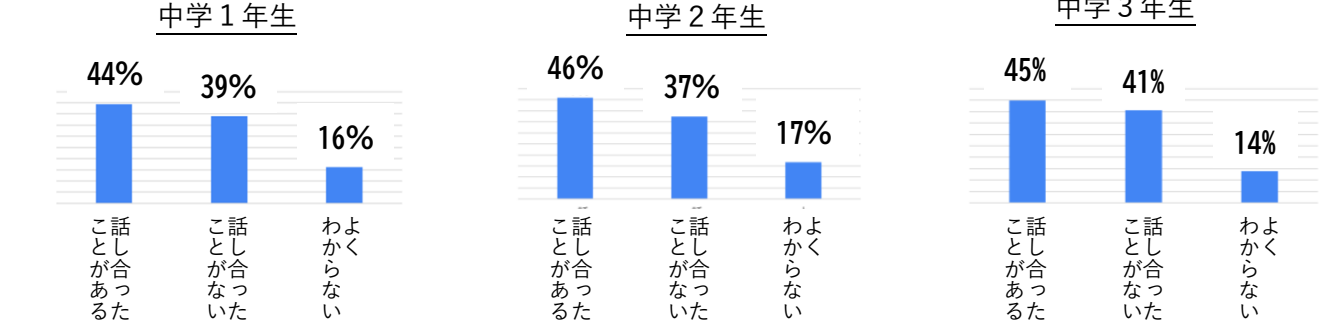
防災について中学校の3年間の中で比べてみると

富士山が噴火したときどうしたらよいか、聞いたことがあるか



- ・「聞いたことがある」と「聞いたことがあるけど覚えていない」の合計がどの学年も9割を超えている。
- ・この時期の中学1年生の回答であることから、小学校から噴火について学んでいることがわかる。
- ・中学2年で知っている割合が増加する。これは、中学1年の3学期に火山について学ぶためであると考えられる。

富士山が噴火したときのことを家族で話し合ったことがあるか



- ・話し合ったことがある家庭が4割～5割の間で、話し合ったことのない家庭が4割。3学年とも回答がほぼ同じ割合となった。
- ・中学生は発達段階からすると小学生のように庇護されるだけでなく、災害時、地域に戻れば共助の一員として働くことも求められる。ただ、緊急時家族が安否確認をする上では、家庭ごとに話し合い、大まかでも約束事をきめておくことは有益である。